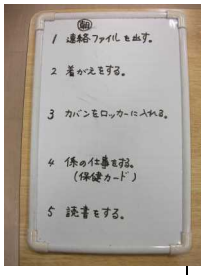
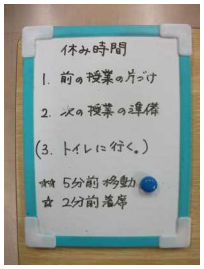
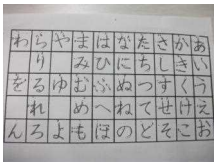
教材・支援機器活用実践事例
【交流及び共同学習に参加する際の配慮・忘れ物を防ぐ支援】

<table>
<tr><td rowspan="3">子どもについて</td><td>学級・学校・学年</td><td>中学校　１学年　特別支援学級（知的障がい）</td></tr>
<tr><td>対象の障がい</td><td>知的障がい・自閉症</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>小集団学習</td></tr>
<tr><td>学習上又は生活上の困難さ</td><td>子どもの特性や教育的ニーズ</td><td>落とし物や忘れ物が多く、片付けや整理整頓等の自己管理が苦手。書く文字の形が整わない。集団の中で静かにしていることはできるが、よくしゃべり落ち着きがない。目に入るものの刺激を受けやすく話を聞いていないことが多いため、違うことを行ったり活動が周囲より遅れたりすることが多い。→「何をどうするか」「次に何をするか」等の具体的な指示を出すなど個別の支援が必要。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教材・支援機器活用</td><td>使用した支援機器･教材の名称</td><td>ア：登校後の活動の流れ（視覚的手がかり）
イ：休み時間の優先順位（　〃　）
ウ：移動教室時の教科セット入れ
エ：硬筆手本 あいうえお表（下段）
【画像】ア
 
イ
 
ウ

エ
  </td></tr>
<tr><td>活用のねらい</td><td>ア：自分自身でやるべきことがわかり・できる。
イ：　　〃
ウ：交流授業（技能教科）に必要な物を整えて持参する。（忘れ物防止）
エ：文字を丁寧に書くことを意識できる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業における支援
・教材の配慮事項</td><td>視覚的手がかり（ア、イ）を用意することで、言葉かけによる指示を必要最低限にし、本生徒に見通しを持たせ、自分で行動できるようにさせる。教室以外の場所での授業に必要な物をケース（ウ）に入れて持参する習慣を付けさせることで、「忘れ物をした」という失敗感をなくさせる。早く学習を終わらせたいという思いが強く、せっかちで文字を丁寧に書く習慣が身についていないため、国語の授業時に意図的に視写やなぞり書き（エ）を取り入れるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">子どもの変容や評価</td><td>登校後にカバンを背負ったまま教室を一周し、そのまま図書コーナーで、好きな本を読むことが多かったが、机上の(ア)を確認し、(まだ所々で滞ることはあるが）朝の一連の活動をスムースに行えるようになってきている。休み時間(イ)も同様。ケース(ウ)をとても気に入り、自分から必要な準備物を入れ、他よりも早く教室移動が早くできるようになった。</td></tr>
</table>